

日本人では初、華やぎの贈呈式

（一カ堂会長）の業績をたたえて、名誉博士の学位を贈呈した。

人計11人に贈呈しているが、日本人としては初めてになる。

なかに華やかさが漂うハレの空気に包まれた。

「白寿」を寿ぎ、「堂野先生」の門下生として49年前に弁護士スタートを切った、と私的な思いもこめた阿部三郎総長職務代行の挨拶で、贈呈式は始まった。角田

邦重学長は、在野法曹一筋に戦後の裁判制度、弁護士制度全般の改革に参画し民主的な司法制度の確立に貢献した氏の業績を述べる。「畏敬の念」「感謝の気持ち」をこめて（学位を贈呈したい）という言葉が印象を深くした。学位記の贈呈。阿部総長職務代行から「ガウン一式」が贈られた。これも、今回が初めてのものである。

群青のアクセント。それに下がりの付いた角帽。着装した堂野氏をみて、「英才クスフォード大風のガウンだね」という会話が客席で聞こえた。その姿で、挨拶に立つ。声の張りに、また驚かされた。ユーモアに満ちたスピーチにも。「人間100歳まで生きたいものだ、と冗談でいいますが、よもや自分がこんなに生きるかは考えておりませんでした」

最後に、「名誉博士」のこと。「法律の仕事をしてきただけで、勉強はしないほうだから、『名誉博士』と言われると恥ずかしい。遠慮したのですが、まあ冥土のみやげかなと。白寿のお祝いといい、まことに本当にお礼の言葉もありません」

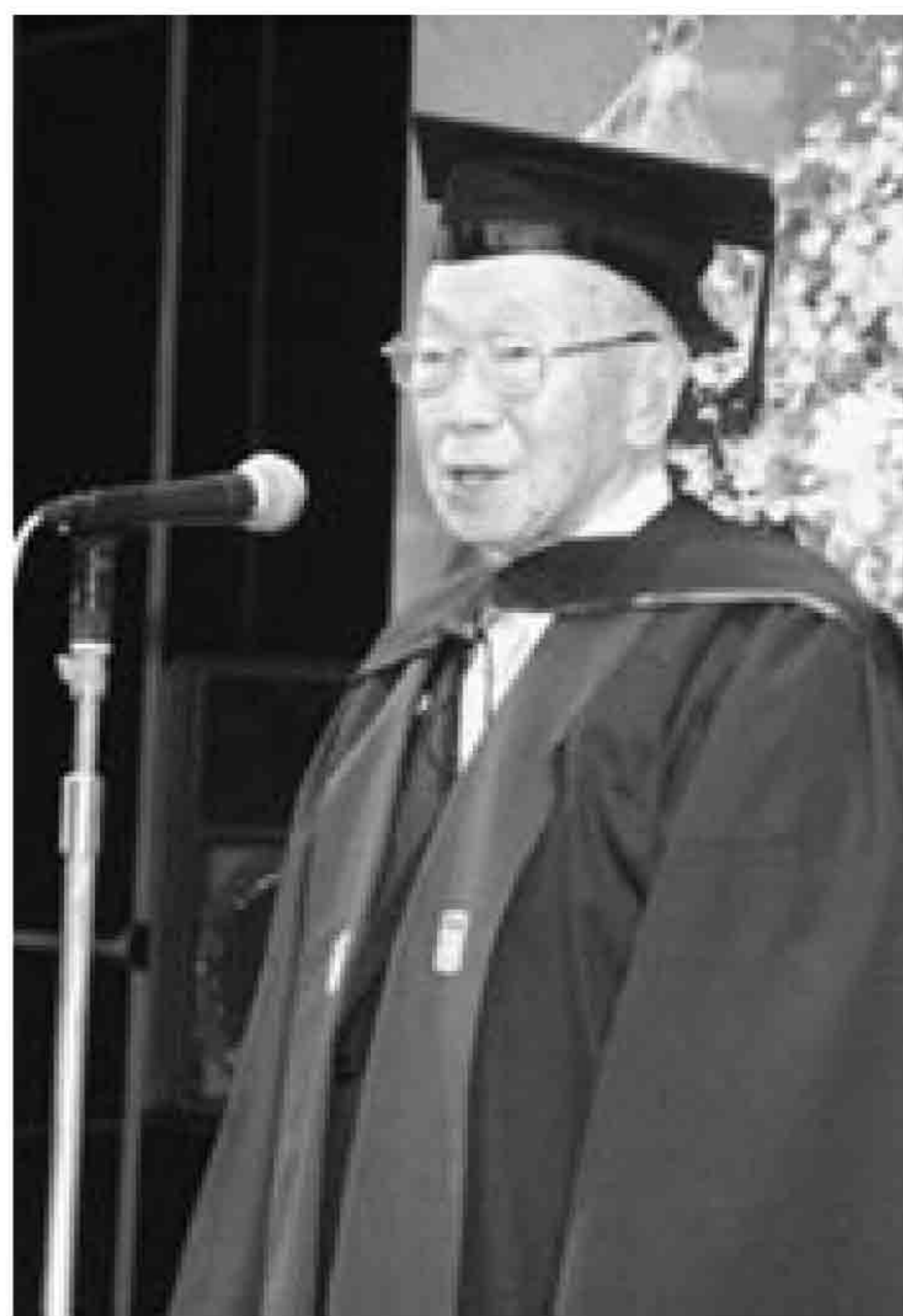
何度も笑いや拍手がわいた。テーブルに着いて、祝宴。その席に何人もが祝福にかけつける。その度に、老弁護士は食事の手を休め相好を崩した。滋味豊かな大きな笑顔だった。

弁護士

堂野達也氏 九十九歳

堂野氏の入場を、拍手で迎える。小柄な方である。付き添いの手があるが、とてもお元気そうに見える。99歳、なおカクシヤクとして、いまも現役弁護士である。

——ホテル2階の「クリスタルパレス」。「白寿をお祝いする会」を兼ねて、テーブル席には学内外の159人が顔を揃えた。



どうの・たつや

明治37年生まれ。昭和6年中央大学法学部卒。東京弁護士会会長、日弁連会長、法制審委員、最高裁判所司法研修所教官など多くを歴任、また昭和48—9年中央大学理事長・総長職務代行をつとめた。現在学会名誉会長、学校法人中央大学顧問。55年勲二等瑞宝章を受章。

年である。82歳のとき胃がんの摘出手術。いろいろ病気知らず、だという。

「（99歳を）振り返って、長かったな、という感じもしますが、では早く死にたいかという、そうでもない。少子化、年金問題などで、生きていいの、死んでいいの、と思うが、次の社会がどうなるか、小泉内閣がいつ潰れるかも見たいから、いまの健康がつづけば健康のまままで生きたいなと思っております」



2氏に「名誉博士」学位を贈呈

中央大学は、堂野達也氏（弁護士）と鈴木敏文氏（イトーヨ

これまでコフィ・アナン国連事務総長（1995年）ら外国

11月13,14日の学位記贈呈式は、厳粛さの

をまとう心境はまた感慨
新た、ということだろうか。
贈呈式は駿河台記念館
5階会議室で開かれた。角
田学長、阿部総長職務代
行が、コンビニエンス、スーパ
ー展開における新ビジネスモ
デルという「業界革命」を

ことし春の
叙勲で「勲二等
瑞宝章」を受
章した。経済
界を代表する
その人が、「私
のような者がい
ただいていいも
のか」と何度も
挨拶のなかで
述べた。
日本人で第
1号の「中央大
学名誉博士」
の学位。「アカ
デミック・ガウン

はじめとして広く社会的な活躍をた
たえた。併せて、経済学部100周年
記念の第1回講演会（昨年秋）など大
学教育面での貢献も大なるものがある
と。

名誉博士学位記の贈呈に移った。ガ
ウンが、大柄の鈴木氏によく似合う。そ
の姿で、マイクの前に。

「そんな柄ではないし、本当にいただ
いていいのかな、と思いい悩みました。あま
り思い悩むことはないんですけれども」
笑って、



すぎき・としふみ
昭和7年生まれ。31年中央大学経済学部卒。イトーヨーカ
堂、セブン・イレブン・ジャパン代表取締役会長兼CEO。経
団連副会長、経産省など各種政府関係委員を歴任。現在
学校法人中央大学理事、南甲倶楽部会長。藍綬褒章、紺
綬褒章、勲二等瑞宝章を受章。

「学長先生から、これが最初で今後
につづくというような話もうかがって、
それでお受けすることにいたしました。
過分なお言葉もいただきましたが、た
また私が仕事するにあたって、過去
のやり方では通じないから新しいこと
に挑戦せざるを得なかった、というだけ
のこと。それが新しい手法だと外国の
教材にもなっていると聞きました、あ
んなものが教材になるのかな、と感じた
のも事実でございます。
過分な学位をもらいました。少して

も後輩に役立つことがあればまた努力
させていただきますと思います」

短いが、母校への思いあふれる挨拶で
ある。

1階のレストランに場所を移して、「南
甲倶楽部」の主催でお祝いのパーティが
開かれた。

「外国人に対して」とあった名誉博
士規程をことし6月改正、鈴木、堂野
両氏への贈呈が全学部教授会で承認
された経緯を、角田学長がエピソード
まじりに披露。「品揃え、鮮度管理、ク
リーンネス、フレンドリー・サービスとい
う鈴木会長のビジネス4原則をそのま
ま法科大学院の4原則にしたい。院生
はお客さま、という気持ちで」と阿部
総長職務代行。

フレンドリーなスピーチ、祝福と談笑
の宴がつづく。「いや、あの帽子は小さく
つてね」。鈴木「名誉博士」のガウン話で
また座は盛りあがった。

イトーヨーカ堂会長

鈴木敏文氏七十一歳

